

新宮山彦ぐるーぷ第2000回

南奥駆道(京ノ谷大谷林道と奥駆道との出合い奥駆道案内板)

稚児ノ森ノ塔ノ谷峠間の点検巡視

(倒木処理・遭難者対応・靡名板設置など)

◇実施日：2018年11月18日(日) 晴

◇参加者：沖崎吉信、児嶋道夫、橋本 梓、梶野照雄。 4名。

この日は、山彦としての行事予定はなかったが、今月に入り吉野から入山した78才の単独登山者が、二ノ上葛川塔ノ谷峠付近から奥さんに電話を入れ「倒木があり前に進めない、今日は此処に泊まる朝又電話する」と話したのを最後に連絡が取れなくなったことから、家族から捜索要請がありヘリ出動の事態となった。

(二ノ、大森山で発見救助された)。

続いて二ノ地藏岳に向った大阪市の84才と83才の夫婦が、妻から「夫とはぐれて道に迷っている」と電話が入り、16日に警察と消防が捜索に入り、上葛川の山中で妻は無事発見されたが、夫は約80m滑落し死亡する事故が2件続いて発生した。

この事態を受け梶野君は、特に塔ノ谷あたりで倒木が多く前に進めないとの事が気になった様で、HP掲示板に二ノ確認に出向くとアップされた。金曜日チェンソーの整備依頼で児嶋宅へ訪問時、僕も同行する申し出を聞き、橋本梓さん、沖崎も同行することになり4人となった。

事前に梶野君との打合せでは、倒木も1〜2本位と思う、チェンソーも1台でOKとのことだった。

当日7時30分、玉置川を經由し集合地に出向く。途中、玉置辻(本宮辻)で児嶋さんが案内板を設置する。見ればかなりの枚数を持参されていて、児嶋さんは案内板とピンクテープ設置が目的のようだ。

8時45分、奥駆道案内板前で梶野君と合流。それぞれが荷づ

くりをする。児嶋さんは、先日小型チェンソーを購入され、その試運転もあつてか持参され2台となった。これが大正解だった。



大峰奥駆道案内板



出発前の荷づくり



林道ノ奥駆道への道標

9時にスタートする。直後から大物が寝ている。これは帰りにやると決め、前へ100m〜150m位先に枝葉を伸ばした又大物だ。上手から梶野、下手から児嶋さんがチェンソーを入れる。



倒木切除前後



稚児ノ森

橋本・沖崎が片付けを担当し整備。以後このパターンで処理を行う。一ヶ所に倒木が集中していることは無かったが、100mか200m置きの間隔で倒木があった。



岩ノ口(蜘蛛ノ口)



如意珠岳名板(村吉氏作製)設置



古屋宿跡に靡名板設置



児嶋氏作製の案内板設置



奥駈道を遮る倒木状況



「倒木多・道不明」標識設置



奥駈道を遮る倒木処理





塔ノ谷峠手前の杉倒木切除前後



塔ノ谷峠迄は、通常歩くだけなら2時間あれば十分であるが、処
理に時間を要し到着が12時30分、3時間半を要した。
この間、合計17カ所、21本を処理した。その内先般の台風
によると思われる倒木は、6カ所9本あった。
12時半過ぎに塔ノ谷峠で昼食とした。



倒木処理中



塔ノ谷峠の石柱道標



本日の参加者

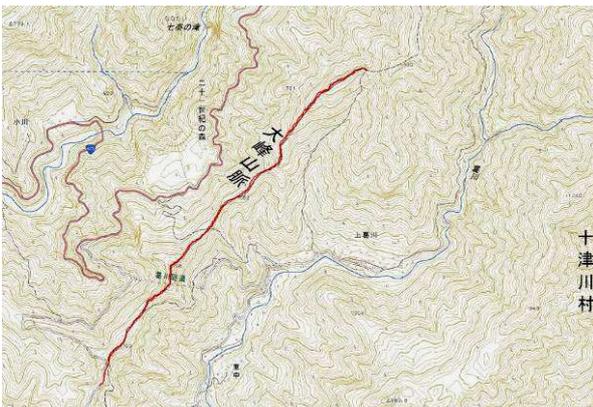
貝吹金剛への急登が目の前にある、もう少し先まで行くかの話
が出るも皆さん無言。ここでUターンすることとした。
帰りも5カ所位処理して15時半頃に戻った。



「倒木多・道不明」標識設置



Uターン後の倒木処理



行動タイム

8:45 奥駈案内板前9:00→9:20 稚児ノ森→9:30 岩の口→9:45 如意珠岳→10:05 古屋宿跡→10:30 21世紀の森分岐→12:30 塔ノ谷峠
13:00→15:30 奥駈案内板前。

背負い子を降ろしたり担いだりを17回繰返した。これだけでもしんどい。特に児嶋さんはチェンソー・工具類・食料・コンロ・フライパンまで持ってかなりの重荷だった。お疲れ様でした。

塔ノ谷峠あたりで前へ進めないことあったが、そんなことは無い。おそらくどつかで脇道へ入ったのか奥駈道を外れたのであろう。塔ノ谷峠から上葛川へ道標は無い(地図に記載)、下方向にきつちりした踏み跡があつて、下降したことも考えられるので「この下倒木多・道不明・要注意」の標識を設置した。

この遭難者は、単独で78才、10/28吉野から入山し、11泊12日間の計画だった様で、通常5泊6日の倍である。余祐を持ってゆっくり歩くは歓迎するところであるが、それに伴う荷の重さを考慮していたのか? 一番気になったのは小屋やテント泊地への到着が夜7時前後など、毎日暗い中を歩いていたことである。

9日目行仙宿に泊り、朝8時に出て笠捨山迄3時間40分要し、塔ノ谷峠着も夜7時24分である。11/7奈良県警から電話が入り「行仙宿の予約など話をしたことはないか」との事であった。

最近気になる一つに単独者や少人数での縦走者からの小屋の予約は十人に一人だろう。予約の電話を入れることは、予約に留まらず、日の短い台風直後のこの時期、登山道はどうなのか、倒木は、水場は、携帯電話の使用は、小屋の設備又アプローチの国道・林道はどうなのかなど重要な情報収集の機会であるが全く無い。

二日前にも年配の女性から電話があつて「12/16に友人と二人で釈迦ヶ岳へ登り深仙宿で宿泊するので予約します」との話。1

2月に入ると雪、寒さも厳しいことを話しするも、何か話がかみ合わない、避難小屋を営業小屋と思つてゐる様で「寝具・食事など全く自前です」と告げると「新宮山彦ぐるーぶさんは旅館業と違ふんですか」ときた開いた口が塞がらなかつた。

遭難トラブルが多発している。台風も多いし大雨も降る日本一、二の多雨地域である。世の中の山も何が起こるか判らない。夜は歩くな! 小屋は予約せよ! 情報収集の重要性など登山者への注意喚起や啓蒙も課題である。

今回この区間で17カ所21本を処理した。すると台風以後の未整備区間である南奥駈道南部の

- ① 東屋岳く塔ノ谷峠間。
 - ② 玉置山く大峯奥駈道案内板間。
 - ③ 玉置山く本宮・備崎間。
- にも、相当数の倒木があるのでという話になる。

本日の如意珠岳と古屋宿跡に村吉さん作製の靡名板を設置した。来年以降4番の吹越山から40番釈迦ヶ岳迄の33靡カ所(4カ所は設置済)への設置に着手する。

(記: 沖崎、写真: 梶野)